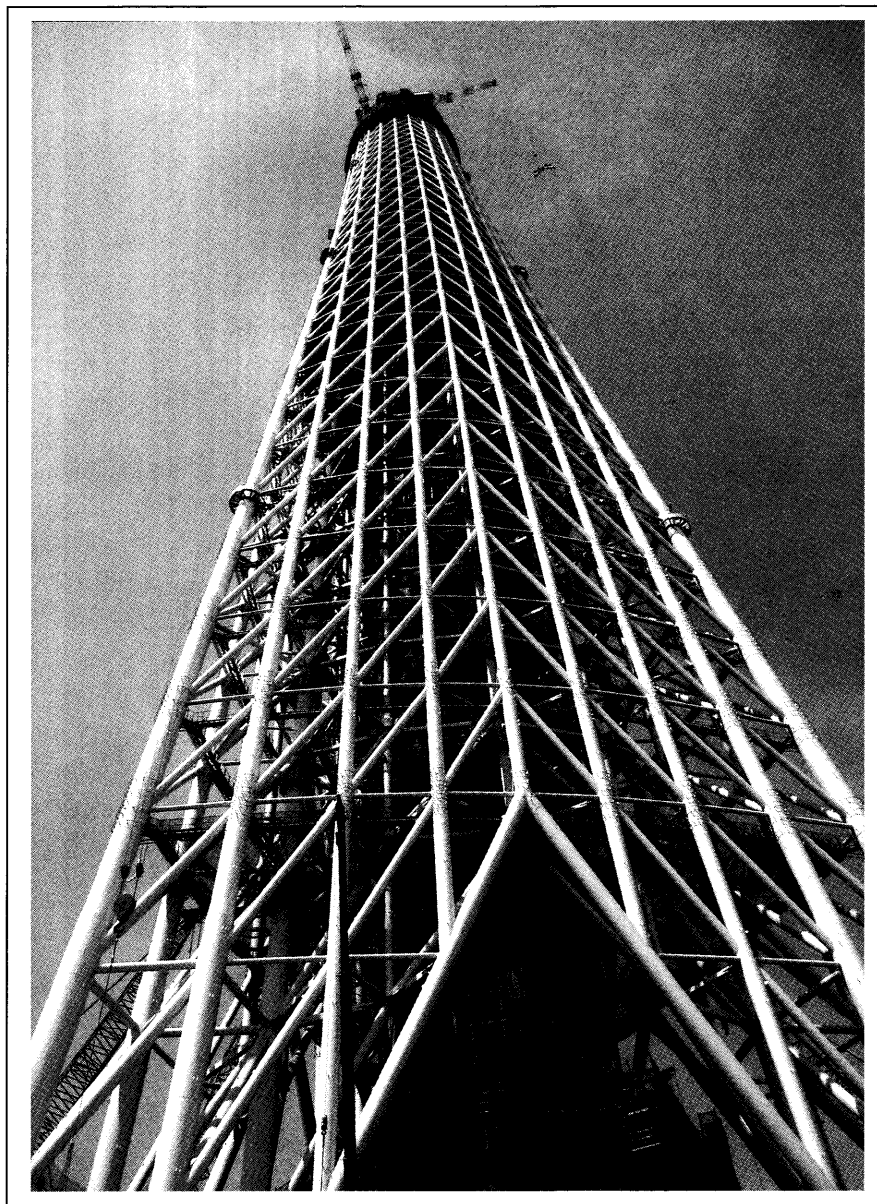


臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報
平成22年(2010)大会号



写真は東武鉄道が墨田区に建設中の電波塔・東京スカイツリー 5月3日大橋撮影
本文13ページに説明記事を掲載

新潟県立村松高等学校東京同窓会

No. 49

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

第53回定期大会に臨んで

大会実行委員長 石黒 四郎（高9回）

同窓生の皆様、今年も恒例の松高東京同窓会第53回定期大会の時期がやって参りました。年に一度のこの大会に於いて、多くの会員の皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。ここ数年ご好評を頂いております「KKRホテル東京」が改修工事の為に使用出来なくなり、新たな会場探しに東奔西走し、数ヶ所の候補を選んで交渉を致しましたが、いずれも帯に短し襷に長しで、担当された役員の皆様には大変お手数をお掛け致しました。苦労の末、九段下の「ホテル グランドパレス」（五泉応援団でも使用）をお借りすることが出来、ご尽力いただきました方々には深く感謝申し上げます。

私は毎年続けて30回近く大会に出席しておりますが、当初の頃は旧中・旧高女の諸先輩方が大勢参加されており、ご指導ご鞭撻を賜りながら暖かいご交誼を頂戴致し

ました。しかし、近年はご参加くださる方も少なくなり、時の流れの無情を感じて寂しく思っております。

半世紀以上に亘り東京同窓会を継続して来られたことは、諸先輩や皆様方の熱意とお力添えによるものと心から敬意を表し、感謝申し上げる次第です。3年前、関東地区にお住まいの高校11回卒以降の方々に対し、アンケート調査を実施して参加を呼びかけたところ、若い人達の参加が次第に増えて来ました。真に喜ばしいことと存じます。この流れがもっとももっと拡がりますよう役員一同ひたすら願ひして止みません。

来年は村松高校が百周年を迎えますが、伝統ある母校の益々の発展を願いながら、同じ校門をくぐった者同士、胸襟を開き充分ご歓談を尽されまして、有意義な一日をお過ごし下さいますようよろしくお願い申し上げます。

東京同窓会 第53回定期大会 プログラム（敬称略）

日時 平成22年7月11日（日）正午開会 会場 ホテル グランドパレス 3F「白樺」

第一部 総会 ——司会・進行—— 石黒 勝夫（高14回）、林 信子（高25回）

- 1 開会のことば・・・・・・・・・・・・・実行委員長 石黒 四郎（高 9回）
- 2 東京同窓会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・会 長 鈴木 多喜男（高 4回）
- 3 村松高等学校同窓会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・会 長 相田 豊（高 9回）
- 4 村松高等学校長あいさつ・・・・・・・・・・・・・校 長 小形 賢治
- 5 議 事・・・・・・・・・・・・・司 会 石黒 勝夫（高14回）
 - （1）平成21年度委員会活動報告
 - ① 総務委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 郡司 正大（高16回）
 - ② 財務委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 塚田 勝（高 8回）
 - 会計監査報告・・・・・・・・・・・・・監 事 熊倉 富次（高 9回）
 - ③ 広報委員会・・・・・・・・・・・・・委員長 大橋 貞夫（高10回）
 - （2）役員の改選
 - ① 次期会長の提案と承認・・・・・・・・・・・・・司会者 石黒 勝夫（高14回）
 - ② 新会長あいさつ
 - （3）その他
- 7 閉会のことば・・・・・・・・・・・・・実行副委員長 郡司 正大（高16回）

第二部 ソプラノ リサイタル

ソプラノ歌手 丹藤 亜希子

阿賀町（旧津川町）出身

第三部 懇親会 ——司会・進行—— 石黒 勝夫（高14回）、林 信子（高25回）

- 1 開 会・・・・・・・・・・・・・司会者
- 2 乾 杯・・・・・・・・・・・・・出席者の中から
- 3 お楽しみ抽選会・・・・・・・・・・・・・幹事 山田 俊治（高14回）・他
- 4 校歌・応援歌・・・・・・・・・・・・・参加者全員
- 5 手締め・・・・・・・・・・・・・幹事 篠川 恒夫（高 2回）
- 6 閉会・お開き・・・・・・・・・・・・・司会者



平成 21 年度 東京同窓会の動き

- 5月16日(土) 第1回幹事会
14:00 新潟県人会館
・52回大会案内状発送作業
464通(442通郵送)
・52回大会の件について
・その他
- 5月27日(水) 第一印刷へ平成21年大会号
No. 47号の原稿送付
- 6月27日(土) 第2回幹事会
14:00 新潟県人会館
・52回大会の件について
実行委員長報告と打ち合わせ
・その他
- 7月04日(土) 東京同窓会52回大会
12:00 KKR ホテル東京
出席者総数 111人
会報配布数 120通
- 7月18日(土) 第3回幹事会
14:00 新潟県人会館
・会報発送355通
・52回大会総括
・その他
- 9月12日(土) 総務委員会
13:00 新潟県人会館
・総務委員会の活動方針・検討課題について
・その他
- 9月12日(土) 編集会議(会報48号)
14:00 新潟県人会館
・平成21年新春号の編集方針
・その他
- 9月12日(土) 第4回幹事会
14:35 新潟県人会館
- ・52回大会について
・役員及び今後の活動について
・名簿について
- 10月17日(土) 編集会議(会報48号)
13:30 新潟県人会館
- 11月07日(土) 第5回幹事会
14:00 新潟県人会館
・
- 11月13日(金) 会報48号原稿を第一印刷へ
- 12月26日(土) 第6回幹事会
14:00 新潟県人会館
・会報発送436通(メール便)
・幹事会・53回大会の件
・幹事会終了後ライオンにて忘年会開催
- 2010年
- 2月20日(土) 編集会議(会報49号)
13:00 新潟県人会館3B
・平成22年大会号の編集方針
- 2月20日(土) 第7回幹事会
13:45 新潟県人会館3B
・第53回大会について
司会者、アトラクション
会場の打ち合わせ、役割分担
・実行委員会
- 3月20日(土) 編集会議(会報49号)
13:30 新潟県人会館3A
・編集方針、原稿の確認等
・その他
- 3月20日(土) 第8回幹事会
14:00 新潟県人会館3A
・第53回大会について
大会役割分担、第二部の催し



左の写真2枚は53回大会について真剣に討議中のもの。いつもボランティアながら熱心に会の運営にご参加いただき感謝いたします。
上の写真は21年度の忘年会、お疲れ様でした。ライオンにて

ありがとうございました

①平成21年度年・会費を納入された方々（敬称略）

五十嵐 一郎	大橋 秀雄	佐々木 秀和	二宮 文三	渡辺 八郎	鈴木 雅子
伊藤 勇五	大橋 貞夫	佐藤 良平	根本 俊夫	渡辺 嘉樹	高尾 桂子
斉藤 和男	大倉 修吾	佐藤 匡秀	羽賀 道信	一氏 愛子	高岡 五百子
佐藤 豊夫	小黒 正恒	佐藤 栄治	長谷川 五郎	小林 草月	高橋 栄子
寺田 徳隣	笠原 静夫	佐藤 克	長谷川 吾一	近藤 昌子	高浜 つる子
成海 正弘	梶屋 庄佑	澤井 昭	長谷川 三男	佐藤 治	田川 百合子
松尾 貢	加藤 清治	澤出 起允	服部 修治	佐藤 玲子	塚野 ミイ子
武藤 三郎	加藤 喜七	酒井 俊昭	浜田 守	鈴木 節子	出口 テル
青木 敏和	金子 鶴男	下野 文幹	原 高志	藤崎 トヨ	寺山 征子
畔田 昭義	金子 健二	柴野 暢夫	原田 實	阿部 ミサ子	徳永 道子
阿部 勇	川合 敏男	新保 優	堀 直昭	芦川 靖子	中島 和子
安部 實	川村 莞爾	杉本 芳男	堀川 俊郎	安達 繁子	中村 エツ
朝倉 克巳	亀山 知明	杉山 喬	平山 誠一	荒井 るり子	中村 俊枝
新井 康夫	杵渕 政海	鈴木 健司	増田 訓英	市川 俊	治田 レイ子
安中 信夫	木村 寿一	鈴木 多喜男	松尾 一広	伊藤 起子	波多野 紀子
安中 幸男	桐生 光憲	関塚 豪	松尾 慎一郎	五十畑 キヨ	林 信子
新井 三郎	熊倉 富次	関谷 雄二	間藤 謙一	上杉 礼子	広瀬 満子
石黒 久七	熊倉 道雄	瀬倉 武志	三室 茂和	大島 エミ	深見 洋子
石黒 四郎	雲村 俊徳	高岡 雄三	丸山 貞次	緒方 康子	星野 孝子
石黒 勝夫	倉田 健五	高岡 英治	宮川 裕皓	岡部 ユキ	升本 久子
石本 芳雄	郡司 正大	高岡 光夫	水戸 勉	海谷 比呂子	増田 京子
五十嵐 健夫	剣持 常泰	高地 彰	宮沢 正由	片柳 ムツ	松本 知子
今井 孝宏	小出 博三	高山 幹雄	武藤 正昭	川村 イク	真水 道子
今井 英雄	小日山 芳栄	滝沢 信喜	武藤 寛	神田 正子	三宅 紀子
岩野 忻史	小柳 実	滝沢 義則	村川 恭平	木村 孝子	向山 律子
伊藤 隆造	近藤 尚志	塚田 勝	村川 五郎	久我 マキ	森田 勝美
五十嵐 丈郷	近藤 洋輝	坪谷 次郎	村川 忠司	熊倉 マサ子	山下 栄子
今井 敬弥	小鍛治 直昭	弦巻 功	八木 又一郎	小島 典子	山西 愈佐子
今井 一義	斎藤 正義	弦巻 等	山中 滋	斉藤 英子	渡辺 厚子
今井 貞夫	斎藤 豊	辻川 登	築取 正通	佐々木 恵美	
大江 勝司	坂上 卓夫	中嶋 久巳	山崎 輝雄	佐藤 綾子	
小山 光男	佐久間 英輔	中川 善隆	山崎 豊吉	佐藤 八重	
大野 恭信	篠川 恒夫	中村 雅臣	山田 俊治	白石 キヨ	
大和田 勲	佐々木 秀三	永田 毅	吉井 清	鈴木 則子	

平成21年度会費納入者数 合計＝199名

②平成21年度・寄付された方々（敬称略）

○男子の部（5名） 金額＝15,000円

7,000円 川合敏男
3,000円 高岡雄三
2,000円 武藤三郎、小日山芳栄
1,000円 大岩信也

○女子の部（3名） 金額＝6,000円

2,000円 小林早月、緒方康子、小島典子

○27,820円 杵渕政海（ハガキ現物寄付）

○30,000円 同窓会本部より活動助成費

寄付合計金額＝78,820円



平成 2 1 年度会計収支決算書

(平成 2 1 年 4 月 1 日より平成 2 2 年 3 月 3 1 日)

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位: 円)				支出の部 (単位: 円)			
特別会計				特別会計			
第52 回大会収入 (No48既報)		892, 000		第52 回大会支出 (No48既報)		1, 021, 363	
一般会計				一般会計			
1	21年度 会費	591, 000		1	52回大会 補填	129, 363	
	男子 138名 (内2名前年度済)	408, 000					
	女子 61名	183, 000		2	会議費	48, 920	
	計 199名 (内2名前年度済)				(幹事会・広報委員会)		
2	平成19年度分会費後納	3, 000	3, 000	3	会報発行関連費	356, 280	
	男子 1名				No4 3印刷代 (500部)	128, 100	
3	平成20年度分会費後納	3, 000	3, 000		会誌用封筒 (含印刷代)	16, 275	
	男子 1名				発送費 (メール便・郵送)	28, 400	
4	平成21年度 寄付金	78, 820			No4 4印刷代 (500部)	128, 100	
	男子 5名	15, 000			会誌用封筒 (500部)	17, 325	
	女子 3名	6, 000			発送費 (メール便)	34, 880	
	はがき現物寄付	27, 820			発送費 郵送・宅配等	1, 280	
	同窓会本部 (活動費助成)	30, 000			発送用宛名シール	1, 920	
	* 寄付金者名は4 ページに掲載してあります			4	通信費	132, 507	
6	利子	270	270		切手/はがき	105, 900	
					コピー代	9, 340	
					宅配・郵便	14, 040	
					封筒	3, 227	
				6	年会費振込手数料	11, 620	14, 630
					はがき交換, 不足, 手数料	3, 010	
				7	対応費 (交際費)	110, 000	
					県人会賛助. 理事会費	20, 000	
					本部総会対応費 (参加 4 名)	90, 000	
				8	緒雑費 消耗品等	22, 032	
					封筒・ラベル・用紙等	19, 972	
					インク	2, 060	
21年度収入合計		676, 090		21年度支出合計		813, 732	
平成20年度から繰越		784, 556		平成22年度へ繰越		646, 914	
	郵便貯金	749, 816			郵便貯金	643, 986	
	現金	34, 740			現金	2, 928	
合 計		1, 460, 646		合 計		1, 460, 646	

上記の通りご報告致します。

平成22年5月2日

東京同窓会長 鈴木多喜男 ㊞

財務委員長 塚田 勝 ㊞

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。 平成22年5月2日 会計監事 佐久間 英輔 ㊞

会計監事 熊倉 富次 ㊞

高4回生・東京地区「お花見と懇親食事会」

鈴木 健司（高4回）

表題の恒例行事を、比較的好天気に恵まれた4月8日に実施いたしました。午後2時、新宿御苑の新宿門入り口に男女7名が集いました。

ソメイヨシノやチョウシュウヒザクラが満開で、それより早咲きのカンザクラ・ヒガンザクラ・オオシマザクラなどは花弁を散らしていました。ウコン・ヤエベニシダレ・ギョイコウ・フゲンゾウなどが満開や五分咲き、或いは咲き初め等、さまざまな状態で私達を出迎えてくれました。新宿御苑は桜が多品種なうえに、ヤマブキ・ハナミズキ・スイセン・ムラサキハナナなど他の花も沢山あり、それらの彩りの調和が素晴らしく、花盛りの期間が長いのが特色で、春のお花見には最適の場所ですね。



新宿門から大木戸門へ抜け、地下鉄で虎ノ門に移動し、「レストラン立山」で午後4時から懇親食事会の運びとなりましたが、ここからの参加者を加え総勢14名となりました。午後5時半に散会とし、女性6名は別室でお茶会に移行され、例年通りお喋りを楽しまれたそうです。男性はそのまま散会となりました。

今回の特色は、お花見会・懇親食事会とも、それぞれ参加者が少なかったことです。男女共通で一番多かった原因は、①本人の体調不良、②家族や身内の体調不良で介護が必要と云うことでした。我々年次生は昨年、今年、来年と、それぞれ喜寿を過ぎたり迎えることになります。しみじみ「そういう年齢になったのだな!」と痛感した次第です。

しかし、健康と体調に留意してもっともっと長生きをし、次の機会には大勢で元気にお会い致しましょう。



高4回生（東京地区）懇親食事会 レストラン立山にて

救命処置

渡辺 嘉樹（高4回）

昨年8月25日付けの読売新聞社会面に、都内の小学6年の男児が自宅で就寝中に突然心肺停止状態に陥り、電話をしてきた父親が、119番の指令室員の指示通りに心臓マッサージを行い、奇跡的に命を救った。このようなケースは、3分以内に応急処置を施さないと致死率が50%に達する。と写真入4段抜きの記事が載っていた。通報から4分後に到着した救命隊員が救命処置を施して一命をとりとめ、搬送先の病院で「突発性心停止」と診断されたが、その後、家族と笑顔で会話ができるまでに回復したと報道されていました。

この記事を読み、東京消防庁で救急業務に従事していた昭和45年頃のことを思い出していました。勤務地の四谷消防署では、出場して大体5分以内に目的地へ到着し対応していました。八王子へ転勤になると、八王子消防署は管内が広く、山林地帯があるとは云え前任署より約50倍の広さと住宅地が方々に散在していて、出場指令を受けて現場に到着するまで20～25分もかかる地域があったのです。当然その中にはもっと早く到着出来れば救命できた事例もあったと思います。そんな中、年間1～2回救急隊長会議があり、大手町の本庁庁舎で都内70余りの消防署から代表1名が参加して、救急部の上司から各種の指示や命令を受けるのです。そして最後の質疑応答のとき、私は日頃から考えていたことを進言してみました。「119番通報を受信した係員が、通報者から病人や怪我人の容態を簡潔に訊き出して、救急隊が到着するまでの間に応急手当の方法等を解り易く簡単に指導しておいて欲しい。例えば、意識が無い人には枕を外して横向きにし、顎を前に突き出して気道の確保をすると。大怪我をしている人には、傷口にタオル等で圧迫止血をする等…」と提言をしたのです。それに対し救急部の上司は「それは良い考えですね、持ち帰って検討してみましょう」と言われたのです。現場のことをあまり知らない上司から一方的に命令を受けているだけでは進歩がないと思っていたのです。もっとも当時は、現在のように一般住民に対して応急手当の指導が余り為されていない時代だったかも知れません。呼吸や心臓が止まってから3～5分以内に心臓マッサージを開始しないと、大脳皮質（見たり、聞いたり、計算したり、考えたり、判断したり、記憶したりする組織）は酸欠状態となって壊死してしまい、例え救命出来たとしても「植物人間」になってしまいます。

皆さんも万一の時にそなえて一度、応急手当の講習を受けてみては如何でしょうか。それほど難しいものではありません。いざという時にきっと役に立つと思います。講習は、お住まいの近くの消防署か、日本赤十字社の支部で開催しております。

超“花冷え”～でも、心は春暖

本間孝平（高12回・五泉在住）

2006年10月に3年5組のクラス会があり、水上温泉に19名が集まりました。その時、次回は古希・高卒50年の節目に当たるので盛大にやろうという事になったのです。そして2010年4月14日、五泉市咲花温泉で20名が参加して開催されました。

村松公園で寒さに震えながら花見気分を味わい、母校を訪れて正門の前で記念撮影をしました。蒲鉄の電車がなくなり、親が子供の登下校を車で送迎するケースが増えているとの事です。

ゆっくり温泉に浸かった後の宴会では、恒例の各人の近況報告となりました。担任の伊藤先生は散歩中に転倒、骨折し欠席となり、「皆さんにお会いできず、誠に残念です」とのメッセージが伝えられました。91歳のご高齢にも拘らず、今でも英書講読を続けておられます。高三の英語授業で副読本としてJ・ゴールズワージーの「リングの木」を訳読しました。その新訳文庫本を千葉の安部實さんが持参し配布されました。当時としてはかなり高度な学習内容であったと改めて実感しています。宴会後はカラオケ大会で盛り上がり、深夜まで続いたので寝不足になりました。

翌朝、起床してびっくり仰天——何と対岸が真っ白！桜に雪、冬に逆戻り——まるで墨絵そっくりの風景が展開していました。思いがけない雪見の朝風呂そして朝食後、貸切の屋形船で「阿賀野川ライン舟下り」を楽しみました。ガイドの名調子で往復50分の舟下りを満喫しました。（雪見酒を・・・という声も・・・）

新緑や紅葉の頃の舟下りも格別であろうと想像でき、その頃再び来たいという願望が湧き上がっていました。「佐取館」に帰着し、「昨夜の懇親会はもちろん今日の舟下りも楽しかった」と大好評・大満足でした。旧友と再会したいという強い同心円的欲求が、次のクラス会に結実することを願い、元気をもらい分かちあう会として発展・継続することを祈念いたします。

幹事役の皆様、本当にありがとうございました。

See You Again !!



村松高校12回卒 3年5組・古希を迎えてクラス会
平成22年4月14日 於 五泉市咲花温泉 佐取館

消えてゆく郷土の歴史

村松高校一年一学期まで在学 堀 直昭（高8回）

新しい電子辞書から「村松」が消えた。少し前の電子辞書には『新潟県中部、中蒲原郡の町。堀氏三万石の城下町として発達。古くから織物業が盛ん。』とある。

町の名前が消えてゆくのは寂しい。この伊豆半島でも「伊豆市」「伊豆の国市」などが町村合併で生まれ、修善寺も湯ヶ島も分からなくなった。町名が消えると同時に、町の歴史が消されてゆくのが悔しい。

我が家に勝手に出入りするマドンナたちは「五泉市っていい名前ねえ、五つの泉でも湧いていたのかしら」とロマンチックなことを言うが、生憎、五泉市の由緒来歴は知らない。誰か教えて下さい。

最新の電子辞書に残っている堀氏は、いまや堀秀政だけになった。『1553～90（天文22—天正18）織豊期の武将。通称久太郎。美濃の人。父は秀重。はじめ斉藤氏に仕え、のち織田信長に登用されて近江長浜城主となる。山崎の戦いなどで16万石をあたえられる。小牧、長久手の戦いの後、'85（天正13）越前北之庄18万石の城主となったが、小田原攻めに従軍中病死した。』とある。

天下の三陪臣と言われた堀監物直政の名前も消えた。三陪臣の一人、直江兼続などは大河ドラマにもなりスポットライトを浴びているのだが……。

風俗史に残る「丹前」には『承応～明暦（1652—58）ごろ江戸神田佐柄木町の堀丹後守の門前にあったふろ屋の湯女のもとに通う男たちの伊達姿。』とあるが、ある辞書では堀丹後守が松平丹後守に変わっている。松平丹後守って、いったい誰だべえ？

町も堀の名前も歴史から消えてゆくが、野尻啓五さんから南條範夫著『一十郎とお蘭さま』の情報を頂いた。高見まことの共著のコミック（全三巻）もあり、最初のページに村松城が描かれている。南條範夫は残酷時代小説の第一人者というから、村松藩ではよほど残酷な物語があったのだろう。戊辰戦争で村松藩は官軍に投降、「責任者を出せ」と言われ、「その役、私が引き受けませう」と名乗り出て処刑されたのがオレの五代前の先祖、悪家老、堀右衛門三郎である。以来、我が一族の流浪の旅が続いている。まさにボヘミアンである。

記録からも記憶からも消えてゆく城下町や一族の歴史だが、同窓のマドンナ深見姐さん、ユサコ様から「村松お城の會」出版の『村松の歴史と風土』が届いた。故郷の歴史や風土を愛し、資料を渉猟、十年の歳月をかけて出版された貴重な本だ。それ以前から郷土史の研究に生涯を捧げた立派な人たちが存在した。いまやほとんどが故人となられたが、その人たちの志を継承する有志たちがこの快挙をなし遂げたのだろう。

町村合併も時代の趨勢だし、どうせ2012年には地球は滅亡する、いまやデラシネ族（故郷を喪失した人、根無し草、というフランス語）と成り果てているアッシには関わりの無いこと、とアキラメていた心に一条の光が射した。世の中、未だ捨てたもんじゃない。

天皇陛下ご即位20年

佐渡おけさ流し踊りを披露

真水 道子（高10回）

平成21年11月12日、皇居内堀通りを新潟県代表として、伝統芸能である佐渡おけさ流し踊りで参加した。主催は、東京おけさ会（代表 高橋和子氏、東京新潟県人会常務理事）が担当、私達 松高組も会に所属しており、先輩の熊倉富次さんを始め山田俊治さん、五泉出身の阿部丈二さんと真水が参加した。他にも今回都合がつかず不参加だった林信子さん、波多ミサエさん等々が会員として日頃から練習に励んでいる。下は当日参加の仲間



当日の祝賀パレードでは、真冬の厳しい寒さに震えながらの出番待ちであった。午後2時過ぎ、国民祭典第1部奉祝まつりの祝賀パレードでは全国各地から16団体が参加、佐渡おけさは13番目にスタンバイし、皇居前内堀通り570mを25分かけてのスタートとなった。総勢110名（地方10名、立方：踊り手100名）が、数ヶ月前から5団体の合同練習を積み重ねた成果をいよいよ披露する時を迎える。

揃いの紺地に白い波模様の着流し姿にすげ笠をかぶり、唄い手や囃子方の乗った車が先導し始める。一糸乱れず、5列で60mほどの長さの隊列で進むと、哀調を帯びた、しなやかな舞の佐渡おけさ踊りはいつも好評で、沿道に詰め掛けた観衆からは盛んに拍手やフラッシュを浴びた。寒さで縮んだ体も終わり頃には暖くなり、沿道の観衆の大声援には、一同が感謝と踊り切った達成感とで、満足感に満ち溢れた一時を過ごすことが出来た。

夕方からは、皇居前広場で「国民祭典」が開催され、約3万5千人もの人達が集う中、6時30分頃には天皇、皇后両陛下が二重橋までお出ましになった。気温12度と冷え込んだ中でも、「ご即位20年」のお祝いは熱気を帯びてきて、ご健康を祈る提灯行列と、日の丸の小旗を高く掲げて打ち振る行列の様子は、まさに圧巻であった。

その後、東京駅地下街にある県人会会長の平氏が経営する店「日本海庄屋」に於いて一休み。110名の仲間達と今日一日の行事が無事に達成出来たことに感謝し、冷えた体を暖めてホッと一息ついた。



内堀通りを流すおけさ会の参加者 前列中央が筆者

今年は、東京新潟県人会も100周年記念事業が盛り沢で、秋には、9月24日に新潟市で前夜祭が始まる。東京新潟県人会主催であるが、女性委員会が中心となって、約1000名の踊り手による、新潟駅から古町まで佐渡おけさ流し踊りパレード（新潟県内と東京方面の県出身者との合同）が行われることに決定した。また9月25～26日には、朱鷺メッセで大交流会のイベントが開催される。

合間を縫って、6月5日～6日には佐渡金山で開催される今年で9回目になる音頭ながし「宵の舞」にも松高の踊り仲間と参加する予定でいる。

あるザル碁打ちの戯言

今井 孝宏（高10回）

月に10日は碁を打ちに。自称正義の味方。弱きを挫き、強きを助く。一石たりとも出るを惜しみ、入るは無限に求む（もつとよこせ！これでもか！これでもか！！即ちやらずぶったくり型）。勝敗の究極は半目を得て良しとするを知りつつも、根がケチであることの証。げに勝負事、とりわけ碁というゲームは本性を如実に顕わに為すなり。

最近に至り正統派の敵を得たり。常先では全く届かないものの、碁の楽しさを改めて知る。果たして齢70にして、ストーリー性のまるで無い、結果オーライ型棋風を脱しうるか、これまた楽し。

先日、ひょんなことからプロの某九段にお目にかかることが出来、いつとき日本棋院市谷本院をご案内いただいた。小規模ながら地下の資料室も非常に興味深いものがあつたが、何より普段我々が立ち入る事の出来ない、5階のプロ棋士の対局フロアーに至り、エレベーターを降りた途端に空気が一変。いまだかつて経験したことのない、身の引き締まる感に包まれる思いがした。またと無い冥土への土産を得たものである。じつに、我が人生最大の自慢の種である。

皇居特別参観の記

森田勝美（高16回）

平成22年3月27日（土）に、友人の案内で「皇居」の「旧西の丸地区」「吹上御苑地区」を参観して来ました。此の地区は一般公開されていません。

周知の事ですが、「江戸城」は、徳川幕府の将軍の居城でした。明治元年に「東京城」翌2年明治天皇が、東京にお移りになり、更に「皇城」と称されるようになりました。又、明治6年5月に失火全焼した「旧西の丸御殿跡」に、「明治宮殿」が完成したのは、明治21年10月の事です。此の時から戦争後の昭和23年迄「宮城」と言う呼称が長く使用されてきました。

現在、「皇居内」には、天皇皇后両陛下のお住居である「御所」を始め、「宮殿」「宮内庁庁舎等の建物」があります。

「旧西の丸地区」への玄関は、皇宮警察官が警備している「桔梗門」から案内されました。入城して直ぐに右手に「窓明館」、「皇宮警察」の建物が有ります。南西方面に歩いて行くと、緑豊かな景色の中に「富士見櫓」が



威容を誇る富士見櫓

高い石垣の上に聳えています。「富士見櫓」を右手に緩やかな坂を歩いて行くと、端正な感じの「宮内庁庁舎」の建物が見えてきます。「旧西の丸地区内」にも、敵からの侵入を防ぐ為に、高い石垣、お濠が多数あり、常に樹齢を感じる樹木を従えて存在しています。まさにタイムスリップした思いで、その辺で刀を差した姿のお侍と出会うのではと錯覚をしてしまいそうです。此の景観の中を暫く行くと「豊明殿」、「長和殿」が建っている「宮殿」に到着します。「豊明殿」は、「宮殿」の中庭に面していて大きな饗宴が催される時に使われています。「長和殿」は、長さが160メートルあり「宮殿」の中で最長の建物です。

下の写真は長和殿



「長和殿」の広場を過ぎると、美しい姿の「正門鉄橋（二重橋）」に出ます。二重橋に立って「宮殿」に向かって

左側に、石垣の上に建つ「伏見櫓」が、樹木が水面に映える「二重橋濠」を従えて聳え建っています。「二重橋」の右側は現代の東京のビル街の風景です。いやが上にも、歴史感を持たざるを得ないスポットでした。



伏見櫓を背に二重橋で記念撮影

次に案内された地域は、天皇皇后両陛下のお住居のある「吹上御苑」です。北の丸公園の方向に「乾門」があります。やはり皇宮警察官が警備をしている「乾門」から再入城です。入ると直ぐに右側に「御苑」が有り堀沿いの道に出ます。「御所」は、堀沿いの参観だけだったのですが、そこから見える木々は、自然林で奥深く、佇まいが広大で荘厳なお屋敷の雰囲気がありました。まもなくすると左側に、幽かに紅葉山の中に建つ「御養蚕所」の屋根が見えます。「御養蚕所」は、美智子皇后が絹糸を紡がれる所です。御反物になさり、訪日される国賓にお土産として差し上げられます。なお、堀沿いの道を行くと「大道庭園」に着きます。そこには驚く程の、大きく幹の太い松の盆栽が、多数手入れをされていました。庭園の次に、「お清めの建物」が自然林の中にひっそりとした佇まいで現れました。此処は、その先にある「賢所」に御出席なさる妃殿下の方々が御身をお清めになる建物で、現在実際に御使用になられていらっしゃる所です。「賢所」の建物は、質素な雰囲気ですが、威厳と品格を持って建っているかのようでした。天皇陛下と皇太子殿下のご使用になられる玄関が左右違う造りになっています。「賢所」は皇室の式典が開催される所です。「賢所」を後にして、来た道を「乾門」に戻りました。「吹上御苑」を後にして、石垣のある急坂の道を歩き、皇宮警察官の警備する門から一部一般解放されている「東御苑地域」に退城しました。最後に案内されたのは、「東御苑地域」の「旧三の丸地区」にある皇室が御使用になられる「御車」や「御用具」が管理されている建物です。明治天皇が御使用になられた「御車」、昭和天皇の御結婚式に御使用の「御車」を観覧させて頂いた時は、現代の史実を目の前にして感激致しました。皇居の参観時間は、3時間程でしたが、「江戸城の昔と今」を実感、体験させて頂いた貴重な一日でした。

地域デビュー

高岡 光夫（高15回）

昭和38年、村松高校を卒業するとき、体育の松田先生に「苦しい時は何クソ！と思ってがんばれ」と励まされました。人生の節目毎にその励ましの言葉が思い出され、一生懸命仕事に打ち込み、昨年6月に46年余りに及ぶ勤め人生活を無事に終えることができました。

勤めを終えたら、やろうと思っていたことの一つが地域デビューです。取手市に住んで32年、図書館以外に地域での居場所がありません。昨年、市の広報誌で「男性講座開催」という記事を見つけ参加してみることにしました。講座の中で、元気に暮らす高齢者を増加させる方法の一つとして、茨城県が健康体操の普及に力を入れている事を知りました。私もその方法を学ぼうと、県が主催する「体操指導士養成講習」を受講することになりました。

講習は、水戸市で週2回、4週間にわたって行われ、午前中に身体の仕組みを学び、午後から実習という内容でした。さらに、2回目からは習ったことに関するテストがありました。講師から「見て触れて、紙に書いて声に出し、繰返すことで覚えられます。がんばって下さい。」と励まされ、小学生に戻ったように声を出して筋肉や骨格の名称を覚えたり、体操の方法を学んだりしました。7回のテストを無事にパスして、今年の2月に県知事から体操指導の認定証をいただきました。

取手市は人口11万人、上野駅から常磐線で40分のところにある自然環境豊かな住み良い町です。しかし、4人に1人が65歳以上と高齢化も進んでいます。市内には、体操指導士会というボランティア団体があり、各所で高齢者の健康づくりのため、健康体操を指導しています。私も体操指導士会に入会し、地域デビューすることになりました。

「高齢者が元気であること。それは、社会貢献」と意気込んでいますが、果たして松田先生のように上手く教えることができるのでしょうか。結果は、またの機会にゆずることに致します。



雲取山を目指して、その後

田中 芳子（高16回）

還暦まであと数ヶ月という時期に十数回の転居を経て、漸く終の住処に落ち着くことが出来た。これからは腰を据えて、楽しく何かをやりたいと考えている時、友人より東京都主催の山のイベントに参加してみないか、との誘いがあった。登山は独身の頃、職場の同僚と数回経験したのみで、不安は大きかったのだから心が動いた。そのイベントは、東京都奥多摩観光協会主催で「雲取山（2017m）を目指して」である。

5月の第1回目は秩父多摩甲斐国立公園の現状、日常のトレーニング、地図形、天気、装備、安全な登山の歩き方などの講義。6月の第2回目からは実践で、都の職員4名、レンジャー（ボランティア）6名、参加者30余名で本仁田山に登った。想像以上に急峻で、苦しい箇所もあった。9月の第3回目は六ツ石山登山であったが、下山途中に14時頃にもかかわらず辺りが真っ暗になり、霧が出てきて1m位先までしか見えず、「離れるな！」の音が響き、急いで雨具を装着した途端に激しい雨が降り出した。地元の山をよく知っている人達の案内なので、私達は安心して下山することが出来たが、つくづく山の恐ろしさを思い知らされた。

10月の第4回目になって、いよいよ雲取山に登ることになった。雲取山は東京都の中で一番高い山で、皇太子殿下も何度か登られたそうである。また、多摩川の源泉で、都民の水道水の2割を賄っている水源林を再生・保全の為の手入れが進まない民有林を都が買い取る話も出ているそうだ。無事に登頂して山荘に到着し、皆で乾杯した味は格別で話も尽きない様子であった。翌早朝、雲海から朝日が昇り始める様子を観て、身体が震えるほどの感動を覚えた。



感動的な日の出

その後、参加者の有志で山の会を作り、毎月1回実施して48回目を迎えた。昨年は世で云う百名山の両神山、谷川岳、会津駒ヶ岳、そして別ルートで再び雲取山に登って来た。何故登のかと考えれば、志を共にする人と自然との一体感、汗を流せる爽快感と達成感であろう。

鶴岡八幡宮の大銀杏

新保 優（高10回）

3月10日の暴風雨で、鎌倉は鶴岡八幡宮の大銀杏が根こそぎになって倒れた。この木は八幡宮そのものを代表する有名な古木であり、倒れるとは予想もされていなかったもので、マスコミを賑わす大きなニュースになった。

新聞などによれば、この木は内部が空洞になって根も弱っているのに、植え直して元に戻すのは難しいとのことであった。しかし何とか生き返らせたいと、上部を切って4mほどの高さにした根元を植えなおし、祈祷して再生を願ったそうである。

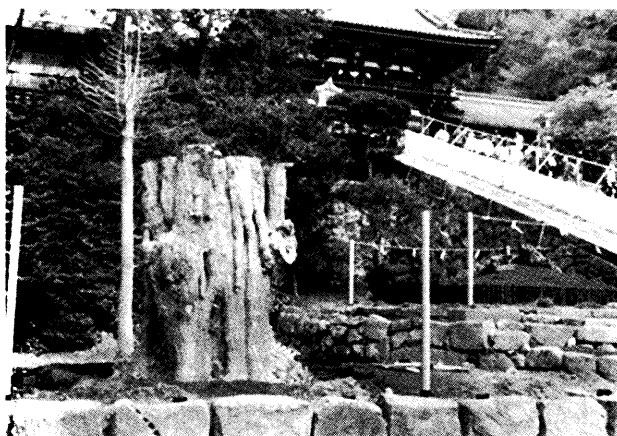
鶴岡八幡宮は今から800年以上前（1180年）に、源頼朝によって現在の場所に建立された。この木がそのときに植えられたならば、800歳以上になる。

しかし鎌倉幕府の3代将軍、源実朝が1219年にここで殺されたとき、暗殺者がこの木の後ろに隠れていたという説がある。それが事実なら当時すでに人を隠す程の幹周りがあったことになる。そこでさらに数百年を加えて、樹齢1000年以上の木であるとも言われている。

このような歴史を持つ木の倒れた姿を、公表して人目にさらすのは失礼な気がするし、切り株にしてまで、無理やり生き延ばしを図るのは残酷なようだ。しかし木に意識があるとは思えないし、仮にあったとしても人とは異質な植物に、人間の価値観を当てはめても意味がないであろう。

鎌倉までは、私の家から自転車で1時間ほどの距離である。そこで野次馬根性に運動不足解消をかねて、3月の末にその後の銀杏の様子を見に行ってきた。

銀杏は社に登る階段の上り口の脇に鎮座していた。実際に見るまでは、惨めな姿を想像していたが、さすがに年を経た老木だけあって、切り株になっても堂々とした威厳と貴族を示していた。



仮にこのまま芽が出ないで終わるとしても、歴史を伝える記念碑として、ここに置いておく価値は十分にありそうだ。

この株が根付かない場合に備えてか、そばには手回し

良く、幹径20cmほどの銀杏の若木が植えられていた。この木の将来の運命が気になった。

だいたいこの銀杏の木は、生えていた場所と樹齢が特別なかで、特別な実や葉を付ける貴重な固体でもなからうから、DNAやクローンにこだわるのは的外れな気がする。この木としてその寿命を尊重し、その後は次世代に任せるのが自然であろう。

とはいえ、関係者の気持ちや、この木にまつわる宣伝効果を考慮した、人の行うイベントとしては大きな意味があるだろう。私自身がそれに乗じた一人であるし、多くの人が私のように木の株の写真を撮っていた。

今年は3月末に真冬に戻ったような日が続き、行った当日もつめた風が吹いていた。4月3日の例祭に向けて、雪洞で飾られた段葛の桜も、2分咲き位のまま固まってしまったようだった。しかし時々日射もあったので、



結構人出が多く、歩道には人の列が途切れることなく続いていた。そして神社の境内には飴売りなどの屋台が出ていた。桜の満開の頃は相当な混雑であろうと予想された。場所柄と時代の流れのためか、外国からの観光客が特に多いようだった。

その後、残った木の根から新芽が出たというニュースを聞いたので、様子を見にいった所、数え切れないほどの芽が根株を覆い、元気に伸びていた。ともかくも後継者の心配はなさそうである。



残った木の根から新芽が・・・

バック・トゥ・ザ・古き良き時代

滝沢 義則 (高22回)

人生の午後を迎える日が近づいてきました。

村松を離れ、第二次オイルショックを経験し、憧れの海外での仕事や生活も送ってきました。また学生時代に始めたテニスは未だに現役で、30代の息子みたいな人たちとチームを組んで、大田区と川崎市の実業団リーグに出ています。健康で人並みの人生を送っていると言って良いでしょう。(感謝です!)

そんな環境の私に一昨年、突然、“新潟県立村松高等学校東京同窓会”なるところから『第51回東京同窓会』へのお誘いの葉書が舞い込んできました。松高を卒業して40年近く経ってのことでした。

『同窓会』という詞は、“先輩(女子学生も含めて)への敬意や憧れ”、“絆”、“同じ(松高の)血を引いている人達とのふれあい”をもう一度経験できる場所を想像させてくれました。早速、総会に出席して直ぐに東京同窓会の幹事を引き受けることになり、先輩達と一緒に時間を過ごしながらかつと学び、そして忘れていた大切な仲間と巡り会って、楽しい交流を続けています。私のこれからの人生は、より充実したものになっていく筈です。

あなたも

『バック・トゥ・ザ・古き良き時代』

経験してみませんか!そして、実りある一日を!

素晴らしき仲間その1 平山誠一君

愛宕中学、松高時代の6年間、一緒に過ごしながら顔も知らなかった。松高時代はテニス部のキャプテン。今はスポーツ関連グッズの卸会社経営。同世代の人間が少ないことを憂慮して、テニス部繋がりから方々へ連絡し、多数の仲間を総会へ集めてくれた。その結果、9名の同期生(高22回)+1名(津川高卒の樋口君)参加ということになる。総会当日まで、お互いの顔を想像しながらの電話会話が続く。

そして、平成21年7月4日の東京同窓会第52回定期大会で受付をしていると、彼が現れた。カッコ良い帽子を被り顎鬚をはやし、手には誘った女性群のためのプレゼントを持参して。気配り抜群!

素晴らしき仲間その2 濱田守君

平成21年7月4日総会受付

(_)しながら私の方に歩み寄る男性、2m、1.3m、60cm、『守?』と声をかけると、ゆっくりと頷いて『義則君、久しぶり』

松高野球部の一番バッターで名ショートストッパー。しかし、私にとって守君は川内小学校の選抜野球チームのチームメイトとしての思い出の方がずっと強烈である。とにかく野球センスは抜群。どこでもこなす。そして、

常に落ち着いていて、ピンチにも動じない。そんな印象をずっと抱かせてきた男。そして、最近わかったことであるが、歌うことが大好き。甘い感じの歌、バラード。振り付け、アドリブ(相思相愛?だった女性の名前とか)が付くことも。

素晴らしき仲間その3 佐藤 雅晴君

平成21年12月25日/新宿(忘年会)

彼の実家(お兄さんが住む)は、私の家から100m程離れている。我々は旧村松町矢津川の出身。雅晴君の家の前では、よく“缶蹴り”をして遊んだもの。村中が範囲だから鬼は大変だったろうね。『雅晴君、覚えていますか?』。そんな彼は、川内中学の陸上長距離のエースであった。やがて、松高陸上部で活躍。放課後にトラックを黙々と走る姿が目には焼きついている。本当に直向きで、誠実な男だ。

素晴らしき仲間その4 樋口雄一君

平成21年11月某日/銀座ライオン(調査目的)

津川高出身の平山君の親友。現在プロデューサー、クリエイターとして活動。漫画家やなせたかしさんと一緒に仕事をしたりと、幅広い人脈の持ち主。平成21年7月4日の総会へ飛び入り参加。やっぱり、クリエイターだ。

素晴らしき仲間その5 藤波雄作君

平成22年2月6日/赤羽(守君の壮行会)

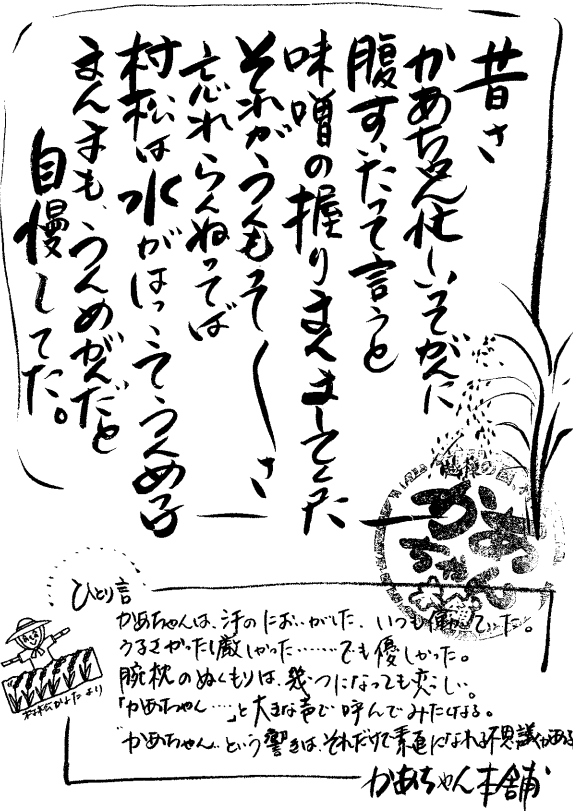
守君が中学校野球部仲間の雄作君を呼んでくれた。川内小学校には分校が二つあった。居平分校と上杉分校。雄作君は小学校5年生になると毎日8キロ歩いて本校へ通ってきた。冬には一人がようやく歩けるような狭い雪道を。よく相撲をとった。背が高く足も長く、内股得意技にしていた。いやあ、強かった。あの距離を毎日歩いていたんだから強いはず。今はヘアドレッサー。40年間女性との会話を欠かしたことがない。(羨ましい)



平成22年4月21日/神田

出席者 樋口、滝沢、平山、濱田、佐藤、藤波の各氏

かあちゃん本舗



霊峰白山を仰ぎ見て、しみじみと自然豊かなこの地で暮らせることの幸せを感じます。広大な蒲原平野、清らかな水。その風景は私たちをいつもやさしく包み込んでくれます。そして、この地には自然に逆らわず黙々と仕事をする愛しい作り人がいます。

村松の食を守るその人々に感謝したいと思う気持ちが生まれました。こんなに美味しい村松の食を多くの方々におすそ分けしたいと思うようになりました。

どんな人にも自慢できる「ふるさと」があります。挫けそうな時、涙する時、また頑張ろうとする時、懐かしくこいしく思う「ふるさと」があります。

そんな「ふるさと村松」の自然の恵みをたっぷり育んだ「村松の自然と食」を、心をこめてお届けしたいと“かあちゃん本舗”をつくりました。

かあちゃん本舗

〒959-1704 新潟県五泉市村松甲2039番地

Tel: 0250(58)7141

Fax: 0250(58)7142

その他、座禅の体験や手作りコンサートなど多様な活動を行っている。

スカイツリー

表紙の写真は今年の5月3日に撮影したものである。大林組が1昨年7月に着工してから、今年の3月3日で598日経過し高さは311mになった。4月6日には338mとなり、東京タワーを越えた。5月5日（工事開始から661日）には368mに達し、第一展望台（高さ350m）の工事が始まって、12日には筒状の塔体から外側にせり出す鉄骨が見えてきた。6月末には鉄骨組みが終わり、塔は帽子をかぶったような姿になる予定。

第1展望台は、その上に塔を伸ばしていく工事の中継点になる。現在最上部にある3基のクレーンが1基増え、展望台の屋根に4基を固定する。地上から鉄骨を吊り上げて屋根に置くクレーン2基と、屋根から上に鉄骨を持ち上げるクレーン2基に役割を分担する。

東京スカイツリー（完成時634m）は、広州タワー（610m・中国）を抜いて、電波塔としては世界一の高さになる超高層建造物で、使う鉄骨は総計3～4万トンになる。直面するのは、直径2.3mの円形の鉄骨など巨大な材料もあり、前例のない難しい作業が続く。

また、スカイツリーはトイレの高さも日本一。下水管を流れ落ちる汚水は秒速10mを越えるという。その勢いで管内が真空になり、便器にたまって蓋の役割をする水が引き込まれると、悪臭が逆流してしまう。その防止策となるのが、縦の配管の連結に採用される「減速継ぎ手」だ。出っ張りを付けた部材で、菅の内側に張り付いて落ちる汚水の勢いにブレーキをかけ、落下速度が半減するため管内は真空にならない。

スカイツリーは半分以上まで成長して来たが、次第に「そり」と「むくり」ある独特の姿が現れた。「そり」は頂点から脚の部分に流れる日本刀のようなカーブで、「むくり」は平安寺院の柱のような中央部分のふくらみだ。相反する要素が溶け合った不思議な形状で、角度によってはねじれているように見える。

開業時のライトアップでは上と下の両方から光を照らし、「そり」と「むくり」の美しさを際立たせる。照明設備はパナソニック電工の担当。

東武鉄道は、墨田区に建設中のスカイツリーと周辺施設の開発資金として、みずほコーポレート銀行や日本政策投資銀行など、計21の金融機関から総額850億円の協調融資を受ける契約を結んだ。東京スカイツリーは2012年春に開業する予定。

融資額のうち、みずほコーポレート銀行と日本政策投資銀行がそれぞれ約160億円と最も多く、中央三井信託銀行は約110億円。ほかに埼玉りそな銀行や足利銀行、常陽銀行、千葉銀行、千葉興業銀行、東和銀行、八十二銀行、京葉銀行なども参加する。

*上記は主に東京新聞を参考にしてツリーの説明文とした。

大橋 記

訃 報

第七代東京支部長

見方 謙策 氏 (旧中18回卒)

かねてから、病氣療養中だった見方氏が平成22年4月23日9時26分、ご逝去されました。

長年に亘り東京同窓会の発展に多大なるご尽力を賜り、会員一同心底より御礼申し上げます。

ここに謹んで哀悼の意を奉げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

飲んでよし、塗ってよし

日本酒美肌効果メカニズムを解明 名古屋市立大研究グループ

名古屋市立大の岡嶋研二教授(展開医科学)らの研究グループが、日本酒の美肌効果のメカニズムを解明した。肌に塗っても、そのまま飲んでも良いと云い、風呂に入れるなど日本酒の美肌効果は知られているが、科学的に立証した形だ。

着目したのは、日本酒を造る過程で、米麹と酵母菌によって作られる糖アルコールの一種「 α -グルコシルグリセロール」(α GG)。研究グループはマウスの知覚神経細胞を培養し、 α GGを加えると、伝達物質が放出されることを確認した。

次に、マウスの肌に塗ると、その伝達物質を介して、細胞の再生や血流増加、汗腺の活性化効果などを促す「インスリン様成長因子-I」(IGF-I)が増加することを突き止めた。 α GGの濃度を0.005、0.01、0.05、0.1%と変えて実験すると、0.01%の溶液が最も皮膚のIGF-Iを増やすことが分った。皮膚のコラーゲン量も1.2倍になった。

さらに、二十台から四十台の女性で実験。十三人に α GG溶液を二週間肌に付けて貰い、専用機器で肌の弾力を比べると十二人が向上。「肌がしっとりした」と好評だった。

美肌効果に適量の α GGが関係していることが分り、日本酒の美容への応用の幅が広がると云う。

岡嶋教授は「日本酒の α GG含有量は約0.5%だから肌に塗る場合は50倍に薄めると良いだろう。飲んで効果があるし、熱でも壊れない」と話している。

(1月6日 東京新聞より)

小出博三氏の油絵展にて

今年の3月7日(日)から13日(土)までの1週間、小出氏(高8)の第12回油絵展が、昨年と同じ有楽町の東京交通会館B1(シルバーサロンA)に於いて開催された。連日、多数の方々が鑑賞して行かれたようであるが、12日には同窓の方々も立ち寄られて、久しぶりに楽しく鑑賞されたそうである。

私は、漸く最終日に都合がついたので、お昼過ぎにお邪魔したところ、五泉応援団で時おりお目にかかる小倉氏とばったり鉢合わせして、予想外だったので少しびっくりした。小倉氏には、五泉応援団の幹事会・総会の写真や故郷の資料などを度々送って戴くのだが、お礼も忘れがちで大変失礼している。

小出氏の作風は、ゆたかな自然の息吹を漂わせる風景画に特徴がある。今回、鑑賞していて気付いたことは、いつもより静物画の多かったのが珍しく、なにか新鮮に感じられた。理由をお尋ねしたところ、遠出が少し億劫になられたとのこと。しかしながら12回連続で油絵展を開催された、小出氏の制作意欲には心から感服するところであり、同窓の皆様には暖かいご支援をさらにお願い申し上げたい。

大橋 記



12日に訪れた同窓の方々と小出氏(右端)



最終日、小倉氏に会う(中央)

第13回親睦ゴルフ会開催

平成22年4月8日、入間カントリー倶楽部に於いて松高東京同窓会の第13回ゴルフコンペが開催された。

当日は好天に恵まれながら少し肌寒く、とにかく桜をバックに恒例の記念撮影をして、午前8時28分に1組目がスタートして行った。

今回、初参加の荒川守(高12回)氏、長谷川三男(高18回)氏など11名の参加となった。ゲーム終了後、いつもの楽しい懇親会となった。席上、亀山会長が今回新しく寄贈された「持ち回りの優勝杯」が披露された。

荣誉ある第1回目の優勝杯を手にしたのは、シングルハンドの佐藤克(高21回)さんである。

今回もまた亀山氏、吉井氏のお二人には何かとお世話になり、心から感謝と御礼を申し上げたい。



桜を背に決意も新たなメンバー



亀山会長から佐藤克さんに優勝杯の授与
次はどなたの手に？

第13回ゴルフコンペ

成績(敬称略)

優勝・佐藤 克、準優勝・片柳 ムツ
3位・今井 英雄

参加者名(順不同・敬称略)

1組 亀山 知明、片柳 ムツ、吉井 清
2組 鈴木 輝雄、大橋 貞夫、石黒 勝夫
鈴木 理恵子
3組 今井 英雄、荒川 守、長谷川 三男
佐藤 克

第14回親睦ゴルフ会のお知らせ

平成22年10月28日(木)、入間カントリー倶楽部に於いて第14回親睦ゴルフ会を開催いたします。

持ち回り優勝杯に名前を記して、この会に永く荣誉を刻みたい方、ドラコンに自信のある方、ニアピンならば俺のもの、いや、私のもの！等と腕に覚えのある方も、ない方も、老若男女を問わず大勢の方々に意地と名誉をかけ、挑戦して頂きたいものと念願して居ります。

いざ、挑戦してみよう！と決意された方は下記へご連絡下さい。

吉井 清 (高8回) Tel & Fax 042-527-6482
亀山 知明 (高3回) Tel 042-572-5096

編集後記

普天間問題で迷走を続けた鳩山政権も、福島社民党党首が消費者相を罷免されたことで、三党連立は大きな転機を迎えた。確りしたブレーンを持たない首相が思い付きで発言し続けたため、今日の結果が生まれたように見える。よほど優秀な人でも、単独では最善手を見つめるのは難しからう。確りしたスタッフを確立して、国内外の諸問題に対処してもらいたい。

「調子の良いことはつかり、こきやがつて」なんて昔からこう云う人は稀に存在したが、近年、こう云う無責任な人種が増えて来たような気がする。信義を忘れず、世の平安を祈るのみ。

原稿送付先

〒158 0094

世田谷区玉川四二二一八

大橋 貞夫 宛

E-mail sadao-o@ab4.so-net.ne.jp

広報委員会 大橋

平成22年7月 第49号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏(旧中27) 書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

東京同窓会事務局 〒201-0005 狛江市岩戸南2-14-14

電話・FAX 番号 03-3488-2117(石黒四郎)



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	県立村松高等学校
浮田 辰平 作詞 曲は 旧軍歌より 1. 塵の巷を遠ざけて 雲たちまよふ白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流にも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰が心ぞや 5. 夫れ英雄も人傑も 人の子吾等が類なり あゝ松城の健男児 奮ひて起つべし諸共に あゝ松城の健男児 勇みて起つべし諸共に	相馬 御風 作詞 大和田愛羅 作曲 1. 愛宕の山のむら松の みどりの色の常盤なる 操を胸に日の本の をみな徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雪にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. その名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂ふごと 気高き姿保たばや	相馬 御風 作詞 中山 晋平 作曲 1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしやまぬ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなぎれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生气湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
第一応援歌	第二応援歌	第三応援歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高鳴る血潮 たたえつゝ春の日廻る 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歓喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て 花紅の香に匂ふ 誉れは高き松城の 健児が胸に血や躍る 2. 我等がえらぶ丈夫の 誉れは海の湧くがごと 望みは雲の行くがごと 月の桂をな譲りそ 栄ある名をぞとこしへに	1. 松城健児六百が 祖国の為に剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権を譲ること勿れ 我等六百ここに在り 3. 今壮快の晴戦 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権を譲ること勿れ 我等六百ここに在り